令和４年度　国東市：大分県学力定着状況調査結果（小学校：算数）

１　結果のポイント

【全問題数：３２問（知識２１問，活用１１問)】
・32 問中 24 問（R3 は 32 問中　28 問）が目標値を上回っている。（県は 32 問中 25 問）
・32 問中 20 問が県の正答率を上回っている。
・活用型の問題では，11 問中 8 問が目標値を上回っている。
・課題が見られたのは，教室のおよその面積を選ぶ問題と折れ線グラフから変わり方を読み取る問題であった。
【領域別，観点別結果】
・領域別，観点別ともに，すべての項目において目標値を上回っている。
・偏差値は，すべての領域・観点において 50 を上回っている。
【総合質問紙調査 i-check（肯定的な回答の割合)】
・算数の勉強はどれくらい好きですか。　56.2%（県　59.5%）
・算数の授業はどれくらい分かっていますか。　81.1%（県　83.6%）

２　課題が見られた問題と指導の改善事項

（1）「知識」に関するもので，目標値を下回っている問題

1　（2）【(出題のねらい）数の相対的な大きさについて理解している。】
（正答率 50.5%・目標値 60.0%・選択）

・１００万を１３０個集めた数はいくつになるのかを選択する問題であった。正答は 1 億３０００万であるが，多くの児童（36.6%）が１３００万を選択している。
１００万を１３個集めた数との違いをはっきりさせることや，表す漢字が 4 桁きざみで変わっていることを位取りの表を使い理解させていくことが必要である。合わせて，１００万を１３個集めた数を学習した後に，それを活用し「では１３０個では？」「１０００万だったら」という考え方ができる子どもを育てていく必要がある。他の場面においても類推する考え方を大切にした指導を行っていくことが大切である。

（２）「活用」に関するもので，目標値を下回っている問題

１１　（２）【（出題のねらい）面積の単位の関係を説明することができる。】

（正答率 24.2％・目標値 30.0％・短答）

・1㎡が何㎠になるのかを１ｍが１㎝の何倍になっているのかをもとに解答する問題であった。１ｍが 100ｃｍということは多くの子どもたちが理解しているが，それが 100 倍にあたるということと結びついていなかったことがわかる。1㎡は１００㎝×１００㎝で求めることができるという，長さと面積の関係についても具体物を示し説明させることで丁寧に理解させていく。ａやｈａ・㎢の面積の求め方，さらには今後体積の関係を表す際にも，この考え方を発展させ考えさせていくことが大切になってくる。

１７　（１）【（出題のねらい）図書室を先週利用した人数と今週利用した人数を表から選び，その人数の違いを説明する。】

（正答率 28.0％・目標値 30.0％・記述）

・図書室を先週利用した人数と今週利用した人数の違いを求めるのに，必要な二次元表の欄を示しその求め方を説明するという問題であった。二次元表は読み取れているものの「どちらが何人多いのか」の結論の記述が不十分な解答が 14.5％見られた。二次元表の読み取りも不十分だったと思われる児童も多くみられ，毎年の課題となっている問題である。複数のデータの中から必要な情報を読み取ることができるように指導していく必要がある。また，説明活動をさせる際には，「判断した根拠を明らかにしながら説明する」「説明の過不足を児童同士で補っていけるような展開」を重視して指導していくことが大切である。